

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 8 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170102525		
法人名	有限会社 かがやき		
事業所名	グループホーム 百花		
所在地	岐阜市前一色1丁目4番18号 (電話) 058-249-3051		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年8月3日	評価確定日	平成19年8月29日

【情報提供票より】 (平成 19 年 7 月 15 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 24 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	6.65 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000~25,000 円	その他の経費(月額)	24,000~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 7 月 15 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護 1	2 名	要介護 2	1 名		
要介護 3	5 名	要介護 4	名		
要介護 5	1 名	要支援 2	名		
年齢	平均 77.4 歳	最低	45 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松田内科クリニック 伊塚歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

岐阜市の東、郊外の住宅街にあるホームの新しい木造建物は看板が無ければ気が付かないような、しっとりと落ち着いたたたずまいである。前面の道路は一步入った住宅街でありながら広く、車の往来も意外に多い。しかしながら内部はゆったりと広く快適な空間であり、経営者兼施設長の『私が入りたくなるホーム』を目指して温かな対応と介護が続けられている。法人の代表も平日午後には来所して利用者に対する無償のマッサージが行われている。地域に対する取り組みも積極的に地域との防災協定が交わされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題は職員会議ですぐに見直し・対応がなされて日々の活動に活かされている。申送りノートでの伝達については記録表の修正や確認印を押すような方式に変えて万全を期し、ハサミ・洗剤・殺虫剤などは適切に保管されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価についてもその内容を職員全員に伝え、ケアのチェックポイントとして活かされている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には、自治会連合会・民生委員・行政・家族代表・包括支援センター等の出席をえて、ホームで試食会を開き、会議の今年のテーマなどを話合っている。困りごとなどもこの委員会で相談したりして質的な向上を目指している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時に利用者の状況を報告し、家族の意向を伺い、話し合い、2ヶ月に1回発行されるホーム便りには利用者の様子を添え書きして送られている。苦情箱、家族会、運営推進会議と意見を言い易い機会や雰囲気は設定されているが、あまり利用されていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム便りやお知らせを自治会回覧板で回してもらえよう手配し、地域住民のホームへの理解を深める努力がなされている。地域の廃品回収や防災訓練にも参加して積極的に交流する機会をふやそうと努めている。災害時における地域の防災協力も取り付けてある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人たちとのふれあいを大切にし、家庭的な生活の中でその人らしく輝けるような自立支援を行うことを経営理念として、温かい対応がなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	経営者でもある施設長は、『自分が入りたくなるホーム』を目指して毎月の会議では接遇研修を行ったりして理念の確認・浸透に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム便りやお知らせを自治会回覧板で回しただけできるよう手配し、地域住民のホームへの理解を深める努力がなされている。地域の廃品回収や防災訓練にも参加して積極的に交流する機会をふやそうと努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善課題は職員会議ですぐに見直しをして日々の活動に活かされている。今回の自己評価についてもその内容を職員全員に伝えケアのチェックポイントとして活かされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会連合会、民生委員、行政、家族代表、包括支援センター等の出席をえて、ホームで試食会を開き、会議の今年のテーマなどを話合っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困ったときの相談ごとなど折にふれ接触し、より良いサービスを目指して努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の状況を報告し、家族の意向を伺い、話し合い、2ヶ月に1回発行されるホーム便りには利用者の様子を添え書きして送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱、家族会、運営推進会議と意見を言い易い機会や雰囲気は設定されているが、あまり利用されてはいない。	○	外部第三者的な苦情相談窓口が契約書・重要事項説明書などに記載されていることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の法人他施設との人事異動はなく、日勤・夜勤者とも比較的固定メンバーで運営されており、利用者へのダメージは最小限度となるよう配慮されている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は経費・給与とも法人負担で積極的に派遣しており、研修終了後はホーム会議での事後報告研修や記録も行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年度は運営推進会議が市内をブロック分けして当ホームは近隣6ホームと共同開催となったこともあり、その後も交流が続いている。また、他ホームの研修生を受け入れている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の通所介護を利用しながら入居待機をしている方もおり、事前の面談により違和感なく利用開始されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	配膳・下膳・野菜の下ごしらえなど入居者ごとの対応がなされており、会議でも継続的に再確認されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>温かくも気楽な雰囲気の中で、利用者は各人の意向を自然に表出できる環境にある。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向把握に継続的に努めながら、会議ではアセスメントを充分に行い、認知症の評価スケールなども参考にした的確な介護計画の作成に努力している。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎日の日常生活での変化、毎月の見直し会議(モニタリング)、その後の新たな介護計画の作成となっているが、モニタリング中心に柔軟な対応が取られている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>別に接骨院を経営する法人代表者は、毎日2時間程度利用者に無償マッサージをして、リハビリ目的ながら体調管理も行なっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院からは月2回の往診があるが、主治医は従来どおりが原則で変更は勧められてはいない。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化指針に基づき家族に説明し同意書ももらっている。その指針は職員も認識され、緊急家族連絡体制・医療連携体制・家族宿泊等についての準備は整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報管理については新入社時に説明されている。職員は利用者と気取らない会話が交わされ、経営者は利用者や職員に対しては温かい配慮がなされ、全体的に家庭的な雰囲気になっている。		ノート式の来客名簿はプライバシーの観点からの配慮が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングでゆったりとした時間を過ごし、天気の良い日には散歩・外出が希望者によってなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・下膳・野菜下ごしらえなど入居者ごとの役割分担の協力で、豪華な食卓が用意され、楽しい雰囲気ながら皆さんマイペースな食事風景であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回・午後帯の入浴であるが、男性や汗かきの人は毎朝シャワー浴もあるなど、柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カレンダー管理、掃除、花の手入れ、花瓶の水替え、軽体操、レクリエーション等が役割として、楽しみとしてなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物・ドライブ・喫茶店・花見・外食とともに、日常的な外出・散歩も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物構造上の制約から2階階段口は安全の為に通常は施錠されているが、1階玄関口は誰でも来訪できるよう施錠されていない。	○	自分の意思でいつでも気軽に外の空気が吸える気楽さを、ベランダで代用するなどの工夫が期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	作成されたマニュアルに基づき年1回は消防署立会いの下に避難訓練が行われ、いざという時の地域の協力も取り付けてある。利用者家族の緊急連絡先も一覧表にして掲示してある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に満足してもらいたい経営者兼施設長の思いから、量も質も十分な食事提供がなされ、摂取状況や水分補給もチェックされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングは落ち着いた温かい雰囲気、隅に置かれたソファでは入居者がゆったりと時間を過ごすなど、めいめいがホームの生活をのんびりと暮らしている様子が伺えた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などの持ち込みが勧められており、衣類には名前が書いてあり、室内も各人用に工夫されたレイアウトや装飾になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。